

20160810

MACSQuant2.5

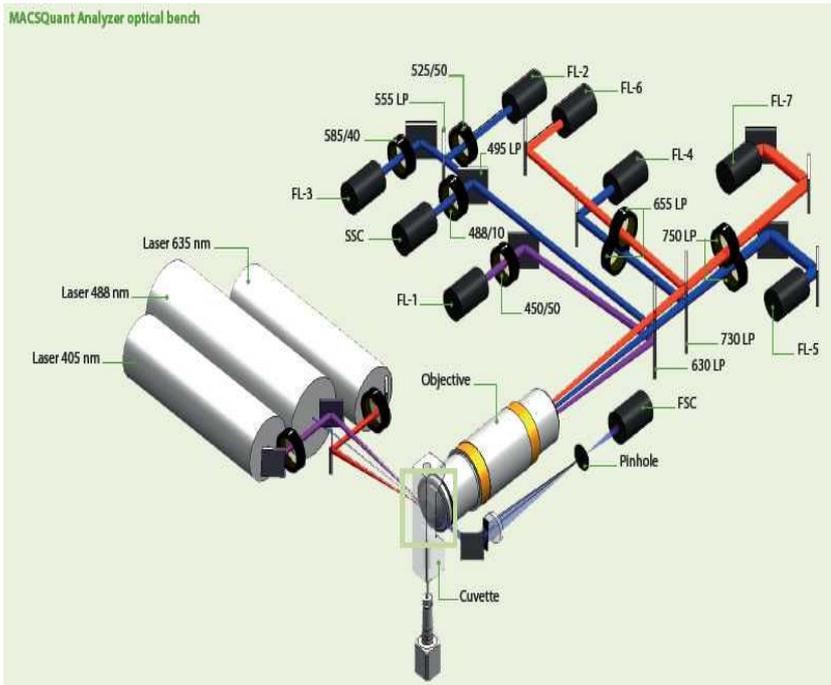
簡単説明書

FlexCBA用

表面抗原/Cell Cycleは別途
お問合せください

MACSQuant Analyzer仕様

レーザー488nm・633nm・405nm



V1-450/50

VioBlue (Alexa405)

B1-525/50

FITC/Alexa488

B2-585/40

PE/PI

B3-655-730

PI/PE-Cy5.5

B4-750LP

PE-Cy7

R1-655-730

APC (Alexa633-700)

R2-750LP

APC-Cy7

FSC-Pinhole

SSC-488/10

必要消耗品 (2008年3月現在価格は参考価格です。)

キャップ	サイズ	滅菌	包装単位	単位	カタログNo.	単価
FALCON社 12X74,5mL						
ツープジションキャップ	5mL	滅菌済	1	500	352003	66
ツープジションキャップ	5mL	滅菌済	25	500	352058	58
ツープジションキャップ	5mL	滅菌済	125	1000	352054	43
キャップなし	5mL	滅菌済	125	1000	352052	30
キャップなし	5mL	非滅菌	1000	1000	352008	12
セルストレナーキャップ	5mL	滅菌済	25	500	352235	120
キャップのみ			500		352032	14
Bio-Rad						
キャップなし		非滅菌	1000	1000	223-9391	
キャップなし			96	960	223-9395	
Thermo	1.2mL		96	960	3496	
	キャップ				3426	
エッペンチューブ1.5mLは、特殊な場合を除き、使用可能です。						

96穴プレート・PCRプレート使用可能???)です。注)

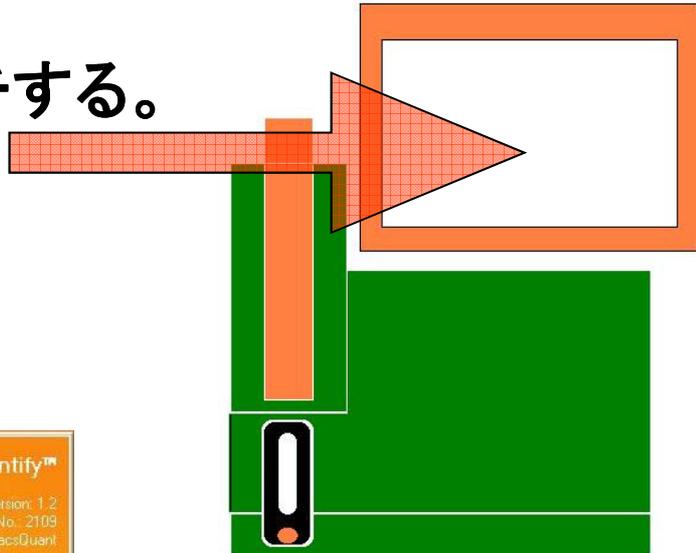
ホールプレート確認中

その他装着可能な製品があります。持込んで、合わせてみます。
Calbrationすれば、ほとんど使用できますが、共同利用のため制限させていただく事があります。

スタート手順

表面抗原2色用

1. スクリーンをタッチする。



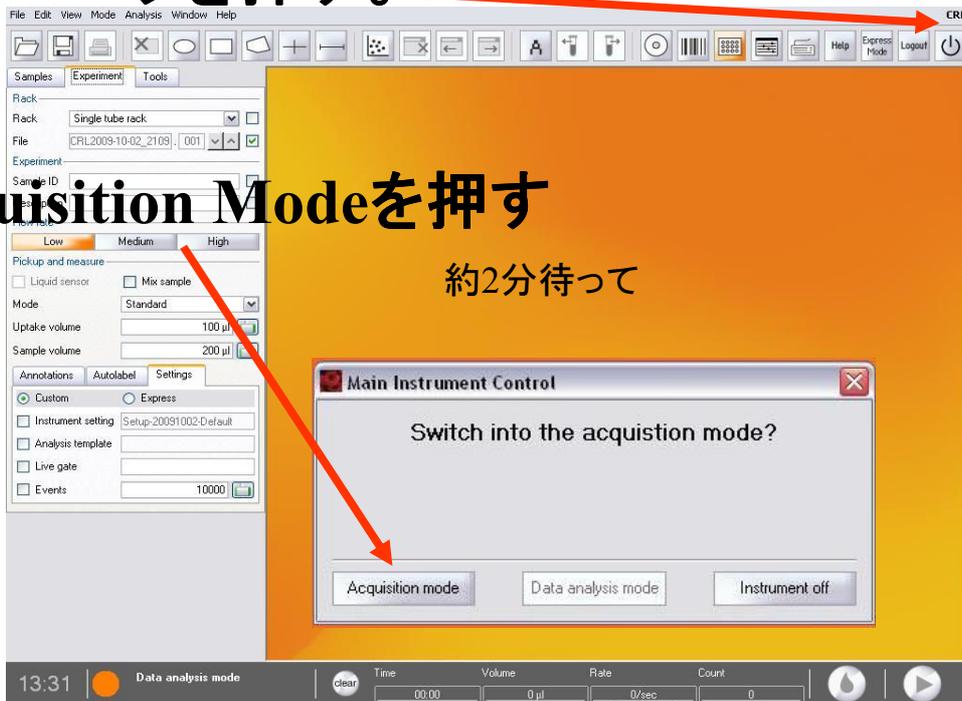
2. Log IN



FlexCBAを選択
passなし

Log In後5分待って次に進んで

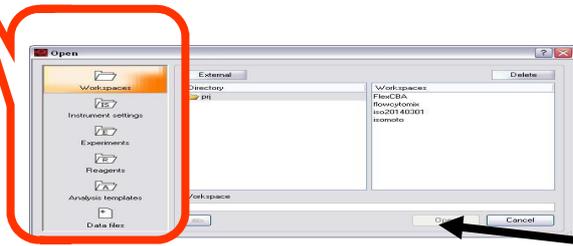
3.  マークを押す。



4. Acquisition Modeを押す

本体イルミネーションが緑になると、準備完了です。Go

Flex CBAの測定時



4. Workspaces

FlexCBAを選択

Openを押す

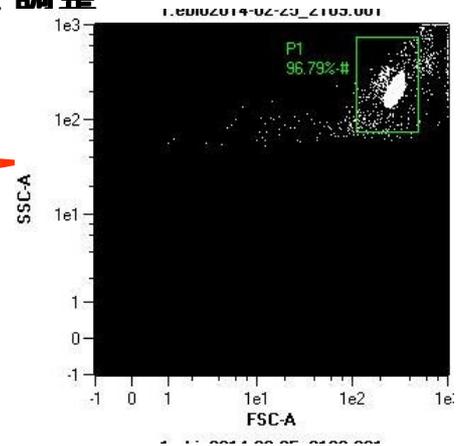
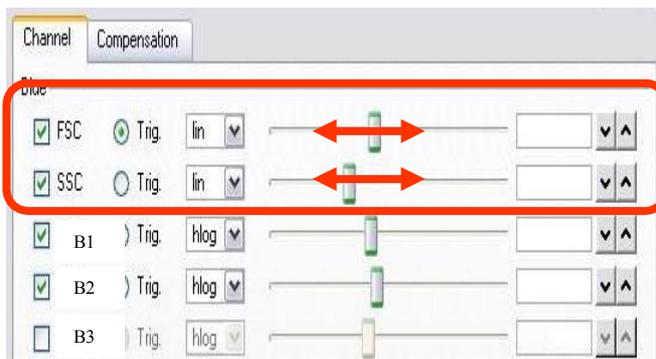


5. Instrument settings

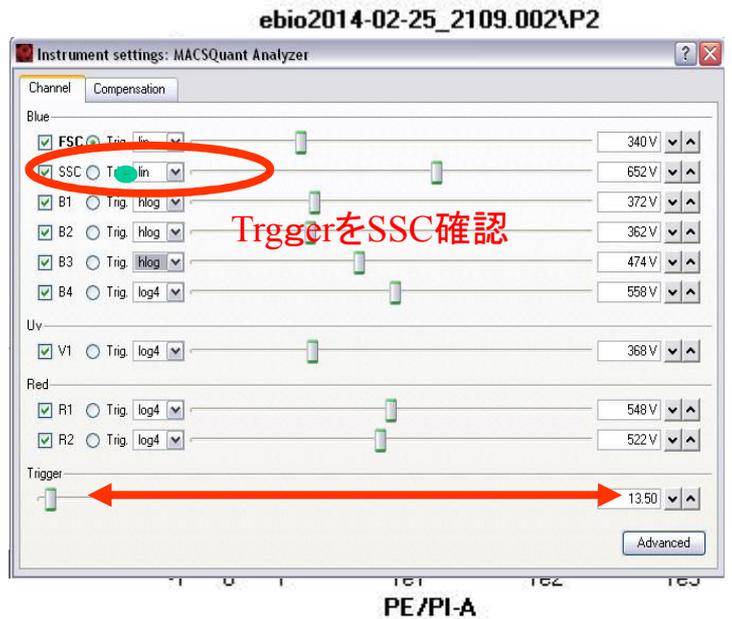
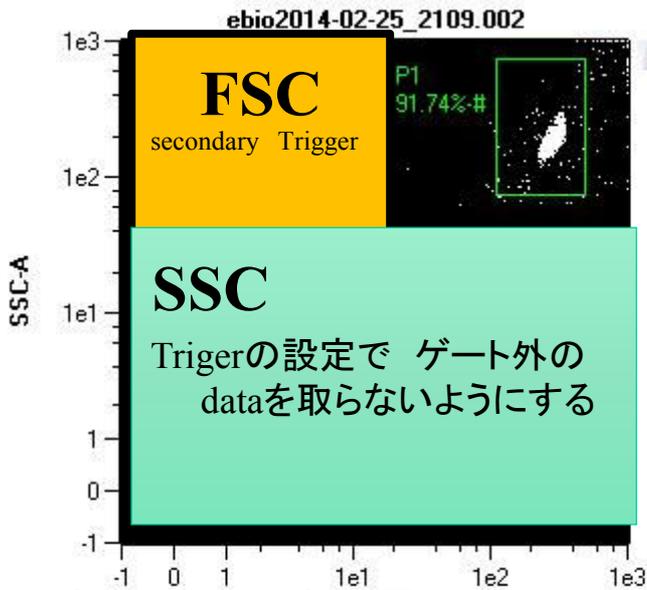
を選択

Openを押す

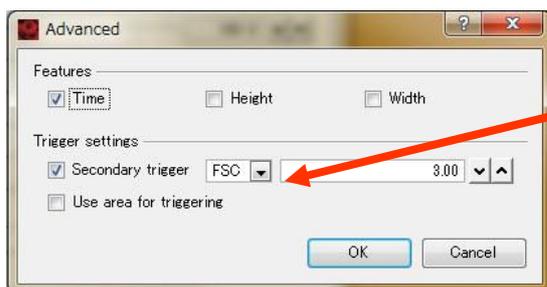
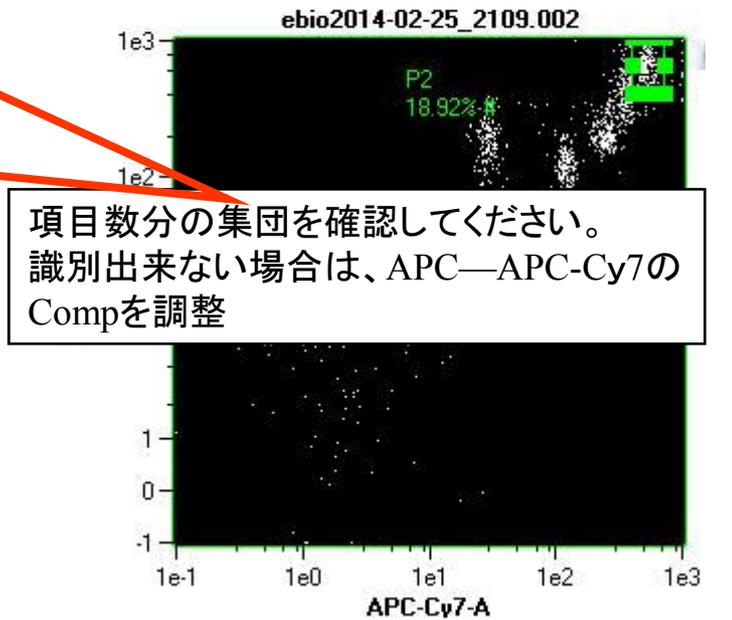
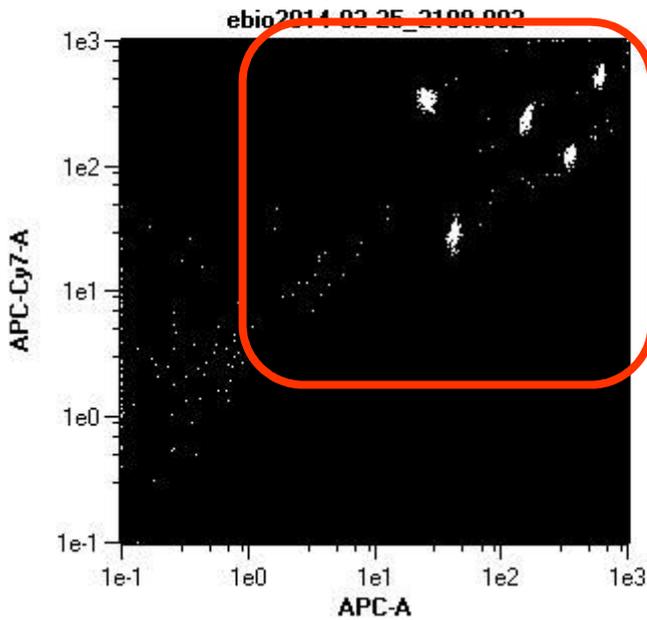
6. 調整FSCとSSCで、ピーズが確認できるように、調整



7. 調整Triggerでピーズが消えない程度に、調整



8. 測定項目の集団確認

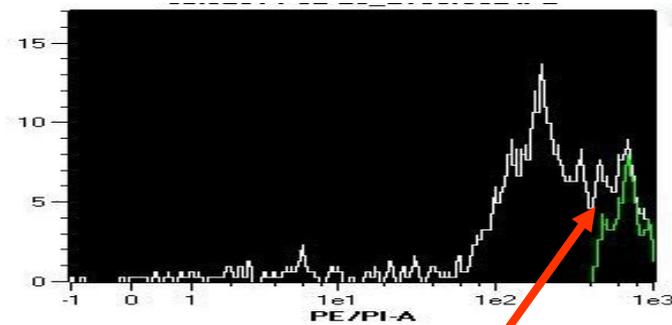
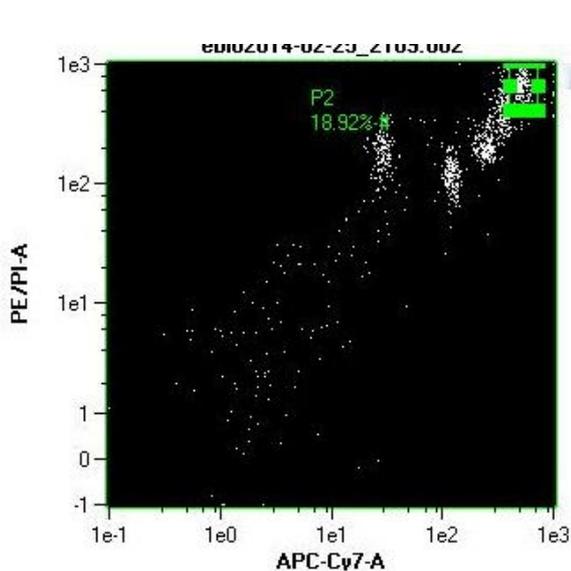


場合によっては、
secondary Trigger FSCを使用する

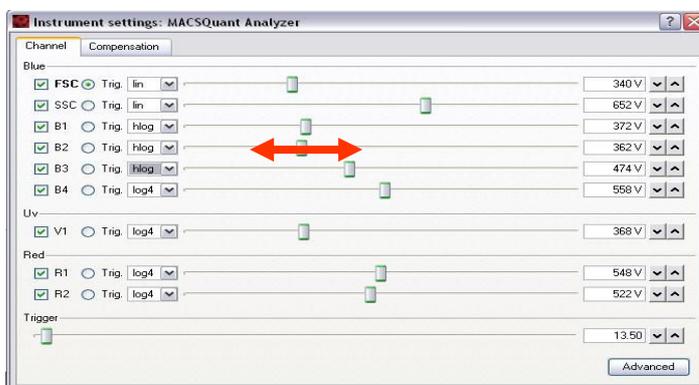
9. PE (FL3) 感度調整

(スタンダードコントロールで、一番高濃度の物を使用して調整)

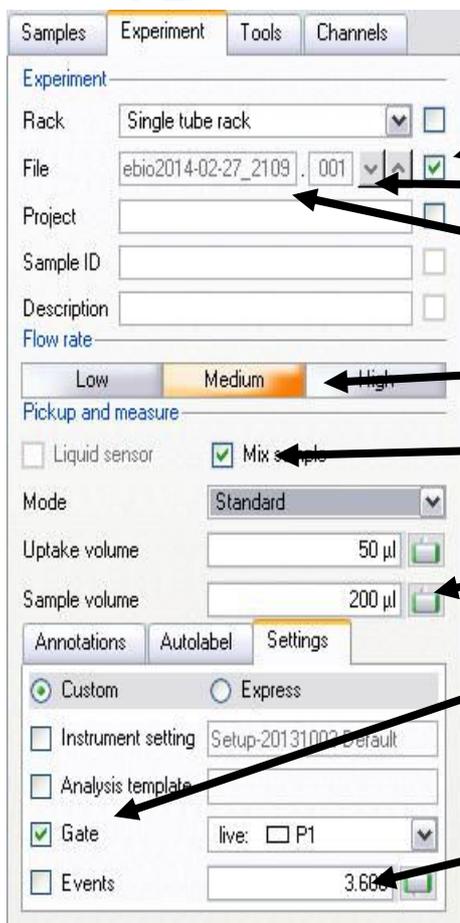
APC-Cy7/PEで、一番PEの高い部分をP2として、PEのヒストグラムで、振り切っていない事を確認しながら、FL3番を最大になるように、調整する。



PE (B2) の感度調整 (最大になるように)



10. 問題なければ、細胞取り込み方法を設定する



10-1. チェックを外し

10-2. 番号を矢印で、001にする

10-3. ファイルNameを入力する (日時・名前)

10-4. サンプルスピードMED

10-5. MIXにチェックを入れる

サンプル全量を入力

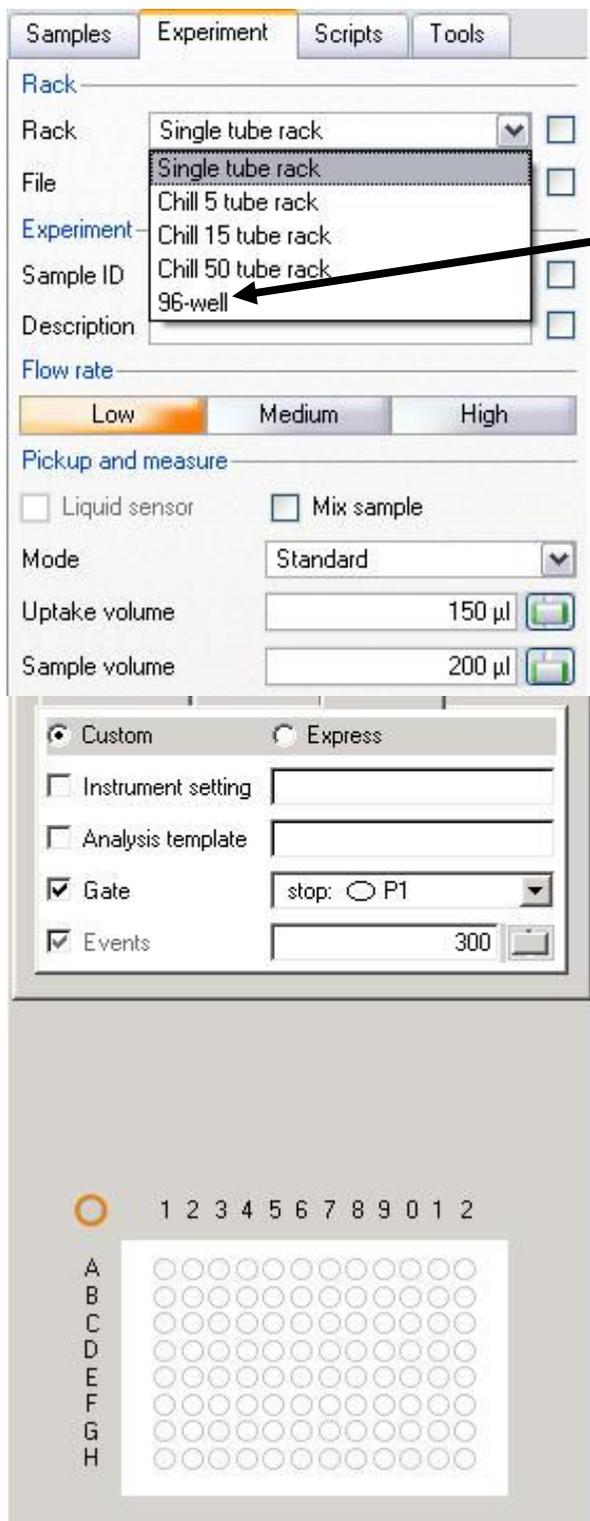
10-6. チェックを入れる。

P1のビーズの項目数*300個の数字

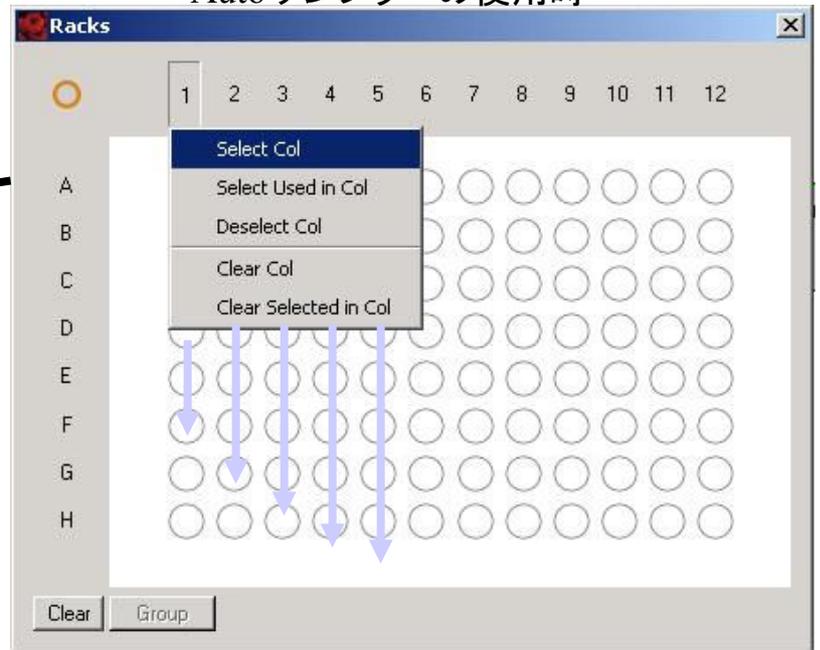
P1測定項目 X300 =

10-7. サンプルを、セットし  を押す。

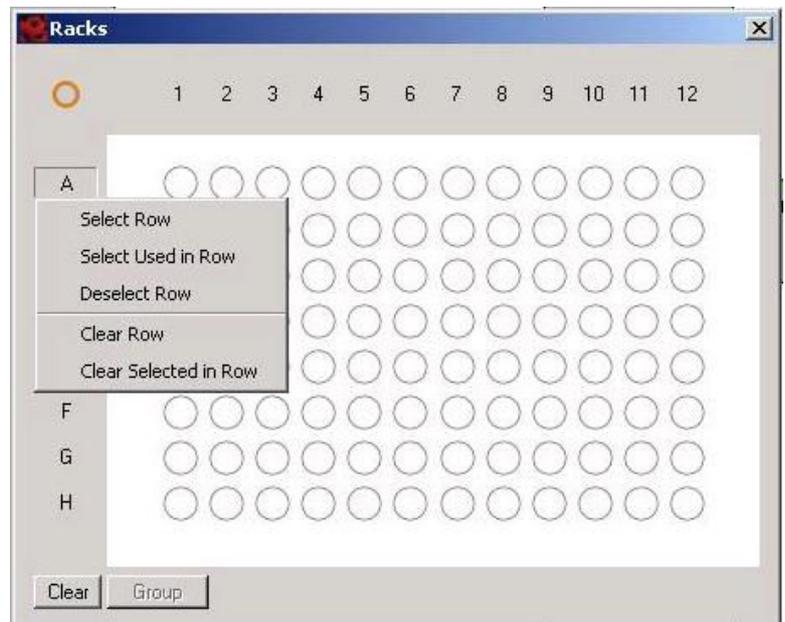
450uL Max
Hi-100u 4min
Med-50 8min
Low 20 16min

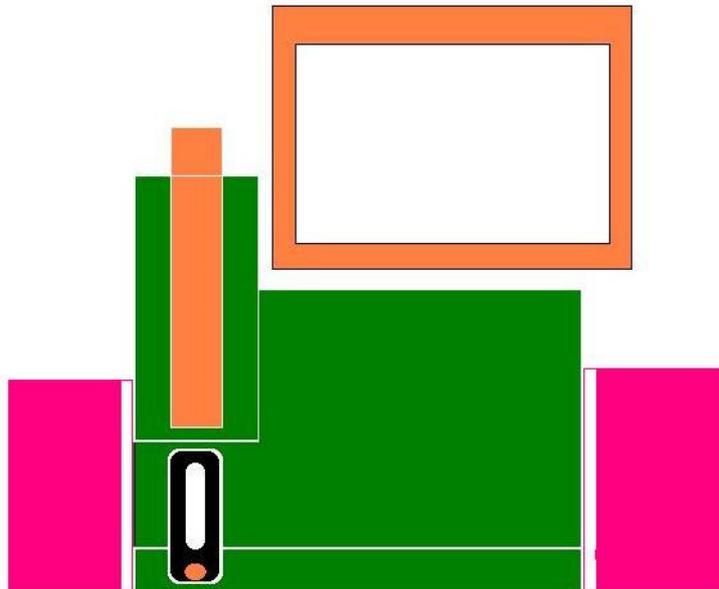


Autoサンプラーの使用時



サンプルをピペッティングしたい場合は
Mix sampleにチェックし
Sample Volumeをスライダーで調整





左右イルミネーションがREDになると、危険です...
点滅している、Bottleを交換してください(作動中は、気泡が入らないように)



一時停止をお勧めします。

右クリック



サンプルが詰まったとき

Lineの洗浄



ハイターをセットし、Cleanを押す。

バックフラッシュ。

右クリック

注意

Data は、予告無く削除しますので、必ず、お持ち帰りください。

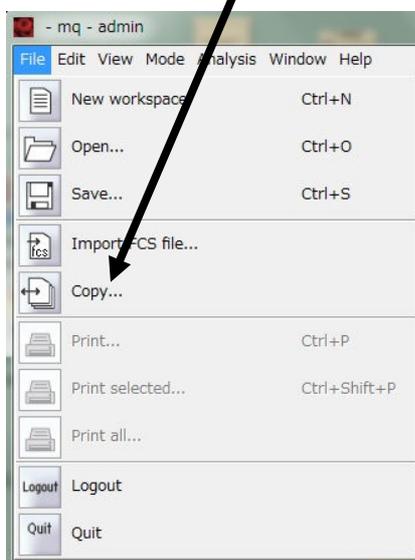
研究用機器にUSBメモリーを、使用される方は、必ず、各人コンピューターにウイルススキャンを導入してください。
高速での処理が必要なため、ウイルススキャンは、導入できません、各人で、感染していないUSBを使用してください。
また、個人dataの実行ファイルは、起動させないでください。

DATAのCopy

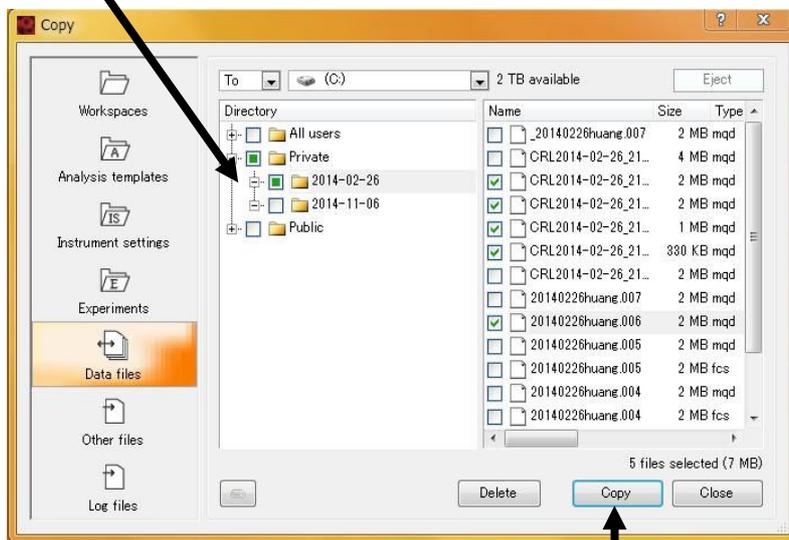
USBを、先に差し込んでください

Mqd形式のファイル:MACS独自のFormatの場合

Copyを選択



Private内の保存したdataを持ち帰る。



Copy実行



Data容量が多いと、時間が掛かります
1Gbyteで、約40分必要です

出来るだけ必要ないdataは、レコードしない・レコード細胞数を減らす



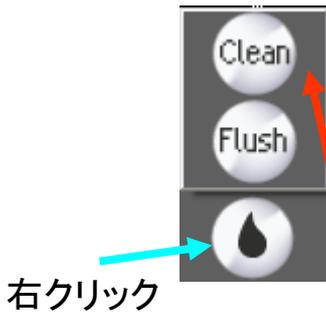
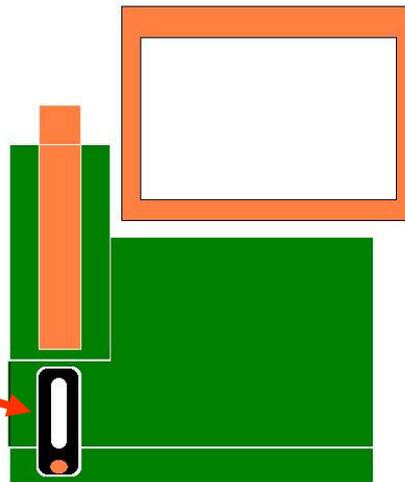
Reportで、移動を確認後、

Eject and closeで、USBを外す。

FCAP3.0で、dataを開く場合は、ご相談ください

シャット ダウン

1. 10%ハイターをセットする

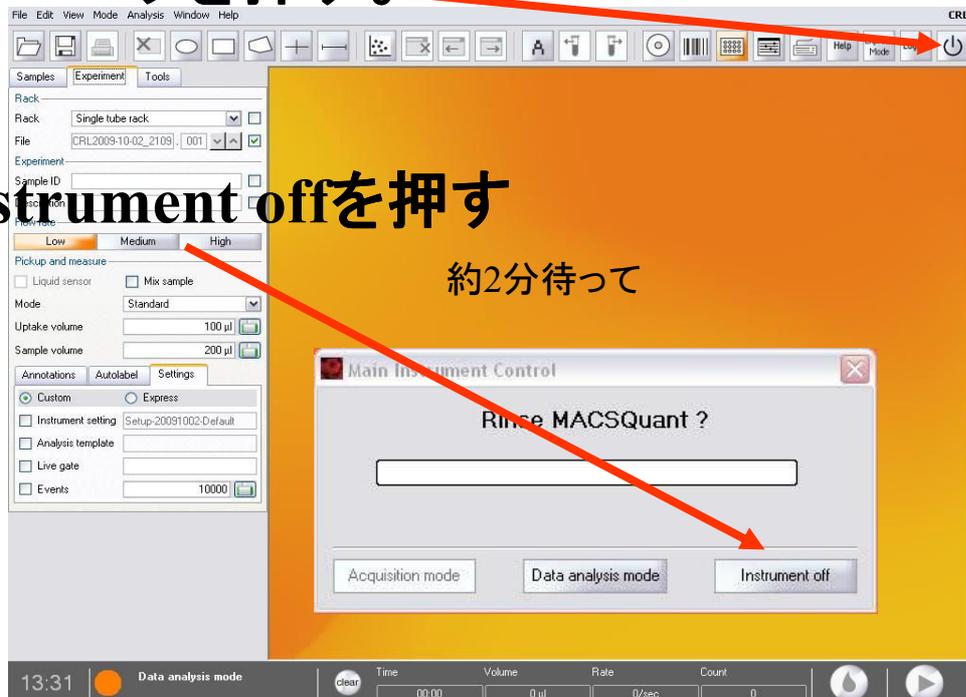


2. Cleanを押す、10分間ラインの洗浄をします。

廃液Bottleを、空の物と交換して、廃液は適切に処理してください。

3.  マークを押す。

4. Instrument offを押す



異常が生じた、Bottleが点滅します。

危険なサンプルを測定した場合は、電源が切れるまで待ち、廃液を処理してください。

使用簿を記入して退室ください。